

進化！

すべての命が守られる未来へ

未来を拓く人を育てるまちへ

つながりで支え合う未来へ

選ばれるまちの未来をつくる

未来を支える市役所へ

美濃加茂市
未来への五か条

NEXT
PAGE ↗

1 すべての命が守られる未来へ

-命を守るインフラ再構築と健康に暮らせるまちへの進化-

第6次総合計画に掲げる『安全・安心のまちづくり』を推進する要である命を守るためのインフラを一層強固に。あわせて、市民一人ひとりが災害を常に〈自分ごと〉として捉え、高い防災意識を持って日頃から災害に向き合えるように。意識啓発と地域での連携した取り組みに力を入れます。自助・共助・公助がそれぞれの役割を果たし、互いに補完し合うことで、地域全体の防災力を高める。また、市民一人ひとりが安心して健康で暮らすことができるよう、一人ひとりが〈支える側〉であると同時に〈支えられる側〉でもあるという視点に立つこと。互いに命を支え合う取り組みを進めることで、〈誰一人取り残さない〉美濃加茂市へ。

①身近な形での防災意識の向上を高めるため、市や市民が取り組む防災事業や災害訓練への参加を促すとともに、イベントや講演会開催時に災害訓練を取り入れるなど、大規模災害に備えた地域防災力の強化に取り組めます。



②公共施設や地域の主要な施設を〈災害時の拠点〉として位置づけ、避難者が快適に避難生活できるよう空調設備の整備。必要な生活用品を整えとともに、電気、水道、トイレなどが確実に使えるための仕組みを構築します。また、防災の拠点としての新体育館の建設を着実にやり、全ての小中学校にエアコンを設置します。

③介護などの人手不足を補完するため、高齢者の見守りにセンサーやAIなどの技術を活用。人の力とテクノロジーの力を融合させた、〈次世代高齢者見守りシステム〉の開発を進めます。



④誰もが最後まで〈自分らしく〉住み続けられる地域であるため、地域や事業者と連携。ワンストップで相談や支援ができる体制づくりを推進します。

1 すべての命が守られる未来へ

-命を守るインフラ再構築と健康に暮らせるまちへの進化-

⑤子ども、高齢者、障害のある方など、あらゆる世代や立場の人が支え合えるよう〈地域包括ケア×学校×地域コミュニティ〉による連携を強化し、支え合いの仕組みづくりを進めます。



⑥健康10か条の実現に向けて、現在取り組んでいる3項目に加えて、〈健診を受けよう〉〈運動をしよう〉〈正しい食事をとろう〉〈良質な睡眠をとろう〉、などの項目について、民間の力も活用しながら、市民一人ひとりが実践できる環境を整えます。

⑦市民の命を守るため、誰もが救命措置に取り組めるようAEDを使える講習を積極的に推進。また、中学生を対象としたAED講習をさらに拡大するとともに、AEDの設置箇所を拡充します。



⑧中高生の時期から、心と体の健康に向き合う力を育成。健康と向き合う機会を充実させることで、一人ひとりが持つ力を最大限に発揮できる環境を整え、医療と上手に付き合う力を身につけます。将来の医療費増大を未然に防ぐ〈先手の健康政策〉を、地域で活躍する医療や健康、スポーツに関わる人たちと連携して進めます。



⑨健康に対する意識向上や生活習慣の見直しを図るため、データに基づいた〈攻めの予防医療〉を推進。市民の行動変容を促す取り組みを進めます。そのため、プロジェクトチームを結成し、美濃加茂市として、データヘルスの推進による個別化医療の実現と健康寿命の延伸を目指した、新たな健康政策を具体化していきます。

⑩誰もがいつでも、どこでも診療を受けることができるよう、オンライン診療の導入についても検討を進めます。



2 未来を拓く人を育てるまちへ

-子どもの教育と誰もが学べる機会を地域の成長エンジンへ進化-

総合戦略に掲げる『人の未来をつくる』政策の推進。そのために、〈教育の充実〉と〈誰もがいつでも挑戦できる機会の拡充〉をします。また、幼児期から大人に至るまで、それぞれのライフステージに応じた市民の挑戦を切れ目なく後押しし、〈子どもも大人も、誰もが挑戦できる〉美濃加茂市へ。

①市内の自然、歴史、文化といった地域資源を最大限活かし、独自の体験教育を強化。里山や河川体験、国際交流など実体験を通じて学ぶ教育を推進するとともに、各地域における学校運営協議会との連携を一層深めます。特に、成長エンジンとしての期待される小規模特認校については、小規模だからこそ実現できる特別な体験や、地域との関わりなど特色ある取り組みをさらに推進します。



②不登校支援など、子ども一人ひとりの状況や特性に応じた支援を行うため、教職員の配置の充実化。すべての子どもたちが放課後に安心して、のびのびと活動できるように放課後教育の環境整備を推進。あわせて、地域や社会との接点を積極的に提供し、〈地域や社会をより良くするために何かしてみたい〉と考えることができる教育を推進します。



③部活動の地域展開を更に推進。すべての中学生が一つでも多く自分が夢中になれることを見つけられる環境を整備。行政だけでなく地域の大人が自らの経験を活かして子どもたちを育む仕組みづくりを進めます。

④〈みのかもユースセンター〉を拠点として、〈みのかもユースチャレンジ基金(仮称)〉を創設。若い人がいつでも、何度でも起業、副業、地域プロジェクトへの参画などに挑戦できる機会を創出します。



2 未来を拓く人を育てるまちへ

-子どもの教育と誰もが学べる機会を地域の成長エンジンへ進化-

⑤里山保育事業を更に発展。

〈非認知能力の向上〉を重視しながら、幼少期の子どもたちの健やかな成長を、データに基づいて支えています。

注:非認知能力とは、学力テストなどでは数値化されにくい、目標達成への意欲や協調性、自制心、やり抜くといった、人生を豊かにし、将来の成功に大きく影響する内面的なスキルを指します。



⑥オンライン講習や講演会などを活用。

誰もがいつでも、どこでも学ぶことができるようリスキリングの機会を創出します。

あわせて、新たな活動の立ち上げ、再就職、事業創出、起業への支援にも取り組みます。



教育を核とした未来創造

—第三次総合戦略—

人口減少や社会の変化に真正面から向き合うため、第3次まち・ひと・しごと総合戦略のテーマに〈教育〉を掲げました。

人を育てることこそが、まちの未来をつくる最も確かな投資であり、次の世代へ責任を果たす挑戦だと考えています。



3 つながりで支え合う未来へ

-地域を再興し暮らしの安心を進化-

総合計画に掲げる『地域再生』の推進。そのために、自治会やまちづくり協議会、学校運営協議会などを核として、教育・福祉・子育てなどの課題や困りごとに、しっかりと向き合い解決していきます。

①自治会加入率の向上を目指し、地域ごとの実情に応じた柔軟な取り組みへの支援を推進。自治会をはじめとする地域コミュニティのつながりを、暮らしを支える大切な基盤として守り育てるとともに、時代の変化に合わせ、世代や立場を越えた新しいコミュニティづくりを支援します。

②子育て、福祉、医療、地域活動といった各分野で活動する人々を地域でつなぐ役割を担う組織として、〈まちづくり協議会〉の取り組みを一層強化。

③実証実験において多くの方にご利用いただいた〈あい愛バスAIデマンドバス〉を本格導入。併せて新たなバス停の設置や運行の利便性向上に取り組み、地域交通を充実させます。



④外国人との共生に30年余り取り組んできた経験を活かし、これからの時代に求められる多文化共生を構築。時代の変化に応じて、行政上及び市民生活をしていく上で守らなければならないルールに対する違反には厳格に対応すること、わからないことや困りごとにきめ細やかに対応しトラブルの未然防止を実施。これらの住民の安心につながる仕組みをデジタル・AIを積極的に活用しながら強化。



⑤妊産婦、高齢者、障がい者、生活困窮者など、孤立のリスクが高い方々への支援強化。対面での訪問とデジタル・AIの力を組み合わせ、行政が早期にリスクを察知し支援につなげる仕組みづくりを推進。

⑥デジタル化の進展により、対面での人と人との出会いや交流の機会が減少する中、地域資源を活かしつつ、市民や民間の力を活用したイベントの創出に積極的に取り組み、場所や機会の提供を行います。

4 選ばれるまちの未来をつくる

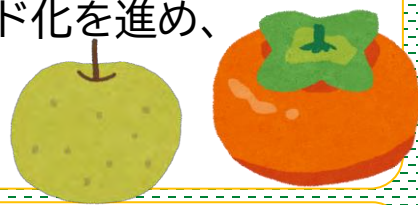
-価値創造都市への進化-

総合戦略に掲げる『人の流れをつくる』の実現。そのために、移住・交流・企業誘致・観光振興を一体的に進めること。これにより、里山、河川、歴史、文化、産業といった本市ならではの魅力を磨き上げます。また、交通の要衝という強み。これを活かし、企業集積地においては次世代を牽引する企業の誘致を進めるとともに、美濃太田駅を起点とした人の流れに対応した魅力あるまちづくりを進めます。ライフスタイルの変化に柔軟に対応。働く・暮らす・訪れる・関わるそれぞれの価値を高めることで、〈選ばれるまち〉美濃加茂市を実現。最終的には、「やっぱり帰りたい」、「これからも住みたい」、「ここで働きたい」、「また訪れたい」、「何か関わりたい」、誰かにとっての何かになるそんなまちへ。

①観光を単純な産業として捉えるのではなく、〈関係人口を生み出す力〉へ進化。里山、飛騨川、木曽川をはじめとした自然資源を活かした体験やアート、文化、歴史を起点に、地域の課題や魅力を表現し、訪れる人が学び、共感し、何度も関わりたくなる観光モデルを構築します。消費型から共感・参加型へ。地域の未来につながる観光を創出します。

②美濃太田駅前から中山道太田宿エリアを〈歴史×まち歩き×文化創造〉を体験できるゾーンとして位置づけ、地域住民や事業者と連携しながら、魅力あるエリアづくりを進めます。

③水稻や梨、堂上蜂屋柿などの農産品、木工・金属・食品といった地場産業について、地域や事業者と協働してブランド化を進め、市内外に製品の素晴らしさを効果的に情報発信し、更なる販売拡大を支援します。



④誰もが安心して農林畜産業に従事できるよう、担い手の確保や経営基盤の強化を支援します。

⑤若者や女性が「住みたい」「働きたい」と感じられる環境を整備。女性の活躍をさらに推進できるような環境整備、デジタルやクリエイティブ産業の誘致やインキュベーションエリアの創出に取り組むとともに、余暇や休日を楽しめる場やイベントを充実します。

4 選ばれるまちの未来をつくる

-価値創造都市への進化-

⑥インターネット環境の整備は重要なインフラ整備。学生を中心に個々の費用負担を軽減するために、Wi-Fi環境を充実させる。

⑦地元企業、学校、行政が連携。地域の学生や人材への情報提供と在職者のスキルアップ支援を通じて、地域企業の人材確保と定着につながる仕組みづくりを進めます。



⑧複業、ワーケーション、週末移住など、多様なライフスタイルを実現できる住環境を整備。あわせて、スポットワーク事業の導入についても検討を進めます。

⑨全国から美濃加茂市のファンを募り、〈美濃加茂市応援団(ファンクラブ)〉を創設。美濃加茂市の魅力を市内外でPRしてもらうとともに、他の市町の応援団との交流も検討します。



⑩エリアマーケティングの推進に向け、テレビ局やインターネット等のメディアと連携。地域の特性や魅力を的確に伝える情報発信を強化。

⑪市議会議員として活動してきた経験から、議会の現場や実情を理解しています。その立場だからこそ、社会課題が一層複雑化し、市としても独自性と高度性を備えた政策や取り組みが求められる中で、議会が市民の負託に応え、より実効性のある政策議論と監視機能を果たせる環境を整える必要があると考えています。議員活動の充実に向けて、議員報酬の在り方を見直すとともに、調査・政策立案に不可欠な政務活動費を充実させます。その際、予算の使途については明確に開示し、透明性の徹底を求めています。一方で、議会全体の効率性を高め、市民負担の適正化を図るため、議員定数の削減(例えば16→10)を提案していきます。

⑫定住自立圏をはじめとする近隣自治体との連携を深め、互いの強みを活かしながら、魅力の向上と合理的な行政運営につながる具体的な取り組みを進めます。

5 未来を支える市役所へ

-未来型市役所への進化-

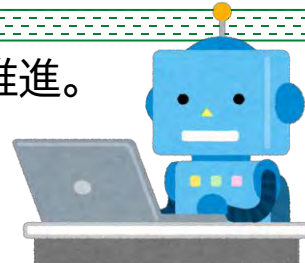
人口減少、財政制約、担い手不足という現実。そんなこれからの市役所は、もはや〈手続きを処理する場所〉でも〈すべてやってくれるところ〉でもありません。これから市役所は、市民・企業・学校・団体が一緒になって政策を共に作り、共に実行する官民協働型市役所へ転換します。これを私は、〈市民政策・共創・実行センター〉と呼びます。市民の声が単なる意見で終わらせず政策にしっかりと反映され、現場の課題が組織や行政の壁を越えて共有され、確かな実行へとつながる。行政職員が市民に寄り添い、ともに前へ進む〈伴走者〉としての役割を担える。そのために、市役所を真に市民のための組織へと生まれ変わらせます。市役所を〈市民政策・共創・実行センター〉へ進化。美濃加茂市から実現します。新庁舎の整備地は定まりました。今後も透明性を徹底し、スピード感を持ちながら、総合計画の要である〈行政経営〉と〈DX推進〉を最前線に据え、AI、オープンデータ、スマホ市役所を活用し、行政の新しい当たり前をつくります。その挑戦を、美濃加茂市から。

① デジタル社会が進む今だからこそ、市民が目の前にいても、いなくても、いつも市民の気持ちを推し量り、寄り添う。そんな取り組みができる職員教育、人事の抜本改革と職場環境の改善を進め、市民に信頼される組織へと進化させます。



② 新庁舎整備の際には、市民の皆さんの声を聴きながら、新しい時代の公共を担う〈市民政策共創・実行センター〉としての役割を担える市役所として整備。あわせて、無駄のないコンパクトで効率的な市役所運営を実現します。

③ IT・AIの活用により、手続きや情報整理の自動化を推進。職員が市民と向き合う時間を拡大していきます。



5 未来を支える市役所へ

-未来型市役所への進化-

④行政データのオープン化を推進。
市民参画型の政策立案や
事業創出を拡大します。



⑤誰もが利用できる〈スマホ市役所〉をさらに拡充。
24時間対応可能な市役所へと進化させます。



⑥開票作業の時間短縮と無効票の削減(書き間違い防止)、そして有権者
にとっての投票の利便性向上を目的に〈電子投票〉を実施します。

⑦若手人材や民間人材の積極的な登用、時代に即した評価制度改革を推
進します。

⑧各分野で課題解決に取り組む人材を
政策検討の場に招へい。
行政と共に〈考える段階〉から〈実行〉までを
担う仕組みを構築します。



次の時代に応える市役所

行政が支えるイメージの時代から、
市民とともにこのまちの未来を考
え、動く時代へ。
対話と共創を力に、
変化する社会に応え
続ける市役所を目指します。

